

Psychometric evaluation of the Japanese version of the Posttraumatic Stress Disorder Checklist in community dwellers following the Fukushima Daiichi nuclear power plant incident:

The Fukushima Health Management Survey

## 福島第一原子力発電所事故後の地域在住者における「日本版心的外傷後ストレス障害チェックリスト」の計量心理学的評価：福島県「県民健康調査」

岩佐一

福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座

### 著者

福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座：岩佐一

放射線医学県民健康管理センター：矢部博興、前田正治、安村誠司

国立精神・神経医療研究センター：鈴木友理子

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座：志賀哲也

### 要約

私たちは、福島県「県民健康調査」の初年度データを用い、「日本版心的外傷後ストレス障害チェックリスト-ストレス因子特定版(PCL-S)」の計量心理学的特性について評価を行いました。16歳以上の総数26,332人の男性および33,516人の女性が本研究に参加しました。参加者は、日本の福島県の避難区域に居住し、東日本大震災と原子力発電所事故を体験しました。参加者の心的外傷後ストレス障害(PTSD)症状を評価するために、PCL-Sを使用しました。さらに、私たちは、精神的苦痛に関するケスラーの6項目検査スケール(Kessler Six-item Screening Scale)(K6)を実施し、教育、雇用、健康度自己評価、睡眠の満足度、地震・津波・原子力発電所事故の体験、および災害による近親者との死別を評価することによってPCL-Sの妥当性を検証しました。

PCL-Sスコアは、より得点の小さいほうに人数が多い分布の形状を示しました。確認的因子分析では、3または4因子モデルより5因子モデルの方が適合度の高いことが示されました。PCL-Sおよびその下位スケールでは、高いクロンバックの $\alpha$ 係数が示されました。PCL-Sスコアは、精神疾患の病歴、近親者との死別、津波体験、原子力発電所事故体験、健康度自己評価、および睡眠の満足度と弱いか中程度の相関があり、精神的苦痛と強い相関がありました。PCL-Sスコアには、有意な性差と年齢差がありました。

全体として、本研究では、スコア分布、因子構造、信頼性、妥当性、および性差と年齢差を含むPCL-Sの計量心理学的特性が確認されました。したがって、日本版PCL-Sは、心的外傷性の出来事を体験した地域在住者のPTSD症状を評価するための有用な手段となることが考えられます。

### 掲載情報

「SAGE Open」 (2016)

---

Iwasa H, Suzuki Y, Shiga T, Maeda M, Yabe H, Yasumura S; Fukushima Health Management Survey.

SAGE Open. 2016; 6(2).